

大阪狭山市立学校園の適正規模・適正配置に関する基本方針について（答申）【案】修正箇所一覧

No	ページ	該当箇所	原案	修正後	備考
1	目次	第2章	本市の学校園をとりまく現状と今後の見通し	本市の学校園を <u>取り巻く</u> 現状と今後の見通し	
2	P1	上から4行目	こども園	<u>認定こども園</u>	
3	P1	下から8行目	令和3年7月から●回	令和3年7月から <u>9回</u>	
4	P2	見出し	とりまく	<u>取り巻く</u>	
5	P2	(1)1行目	昭和33年	<u>昭和22年</u>	
6	P2	(1)下から2行目	1学級の幼児数を35人とし	1学級の幼児数は <u>35人以下を原則</u> とし	
7	P3	①園児数及び学級数の推移 3行目～	子ども・子育て支援新制度がはじまった平成27年度からは、一部の市立幼稚園が市立こども園へ移行しており、令和2年度の市立こども園の園児数をみると、教育利用（1号認定）の園児が45人、保育利用（2号認定）の園児が86人、計131人となっています。	子ども・子育て支援新制度がはじまった平成27年度に一部の市立幼稚園が <u>認定こども園へ移行し</u> 、令和2年度の <u>こども園</u> の園児数をみると、教育利用（1号認定）の園児が <u>38人</u> 、保育利用（2号認定）の園児が <u>78人</u> 、計 <u>116人</u> となっています。	
8	P3	幼稚園・こども園の園児数及び学級数の推移のグラフの注釈	市立こども園は教育利用（1号認定）、保育利用（2号認定）を含めた3～5歳児の園児数・学級数を示す。	<u>こども園</u> は教育利用（1号認定）、保育利用（2号認定）を含めた3～5歳児の園児数・学級数を示す。	
9	P3	児童生徒数及び学級数の推移のグラフの注釈	・令和2年度までは実数値、令和12年度、令和22年度は、社人研準拠（住基補正）による市独自の推計値 ・学級数の推計値は1学級当たり小学校35人、中学校40人とした場合の値	・令和2年度までは実数値、令和12年度、令和22年度は、 <u>コーホート要因法で推計した数値に市独自の補正を行ったもの</u> ・学級数の推計値は1学級 <u>あたり</u> 小学校35人、中学校40人とした場合の値	
10	P4	図表の見出し（上段）	現在の小学校・中学校の状況	現在の小学校・中学校の <u>児童・生徒数及び学級数の</u> 状況	
11	P4	図表の見出し（下段）	小学校・中学校の今後の見通し	<u>今後の</u> 小学校・中学校の <u>児童・生徒数及び学級数の</u> 見通し	
12	P4	今後の小学校・中学校の児童・生徒数及び学級数の見通しの注釈	令和2年度は実数値、令和7年度以降は社人研準拠（住基補正）による市独自の推計値	令和2年度は実数値、令和7年度以降は <u>コーホート要因法で推計した数値に市独自の補正を行ったもの</u>	
13	P5	(3)学校園の配置状況 ①対象施設の1行目	こども園	<u>認定こども園</u>	
14	P5	(3)学校園の配置状況 ①対象施設の表の注釈		<u>※延床面積は、公立学校施設台帳の数値（倉庫や機械室等の小規模な建物を除く。）</u>	
15	P6	②学校園位置図及び各小学校・中学校の校区図の図中	市立こども園	<u>こども園</u>	
16	P6	②学校園位置図及び各小学校・中学校の校区図の注釈	★市立こども園	★市立 <u>認定</u> こども園	
17	P7	学校園の適正規模・適正配置に関するアンケート調査 幼稚園の調査対象	幼稚園・こども園・保育所の保護者及び教職員、未就園児事業に参加する保護者、ぽっぴえん・UPっぷをアンケート実施期間に利用した保護者	幼稚園・ <u>認定</u> こども園・保育所の保護者及び教職員、未就園児事業に参加する保護者、ぽっぴえん・UPっぷをアンケート実施期間に利用した保護者	
18	P7	学校園の適正規模・適正配置に関するアンケート調査 幼稚園の調査対象の表中、教職員有効回収率	77%	<u>75%</u>	
19	P7	学校園の適正規模・適正配置に関するアンケート調査 中学校の調査対象の表中、教職員有効回収数及び有効回収率	有効回収数59 有効回収率81%	有効回収数 <u>58</u> 有効回収率 <u>79%</u>	
20	P9	1学年当たりの望ましい学級数のグラフの見出し	1学年当たりの望ましい学級数	1学年 <u>あたり</u> の望ましい学級数	

No	ページ	該当箇所	原案	修正後	備考
21	P9	1学年当たりの望ましい学級数のグラフ中	保護者全体 (n=1788)	保護者全体 (n= <u>1,788</u>)	
22	P9	許容できる通学時間の限度のグラフ	(n=1,782)	(n= <u>1,784</u>)	
23	P10	1学年当たりの望ましい学級数のグラフの見出し	1学年当たりの望ましい学級数	1学年 <u>あたり</u> の望ましい学級数	
24	P10	学校園の適正規模・適正配置に関して配慮する点のグラフ中	教職員 (n=59)	教職員 (<u>n=58</u>)	
25	P12	(1)基本的な考え方 2行目	園児が自分たちで考え、主体的に物事を進めていく力を身に付けていくための環境づくりが求められます。	園児が <u>友達と生活や遊びを楽しむことを体験して自分らしさを発揮し</u> 、自分たちで考え、主体的に物事を進めていく力を身に付けていくための環境づくりが求められます。	委員会 確認済
26	P12	(2)幼稚園の適正規模について「本委員会が考える幼稚園の適正規模」の表頭	1学年あたりの園児数	1 <u>学級</u> あたりの園児数	委員会 確認済
27	P12	(3) 必要な対策について ①幼稚園に対する対策 下から4行目	施設の配置については、既存の施設の活用だけに限定することなく、既存の市立こども園や民間の認定こども園、保育所等も含めた地域間での立地のバランスや、周辺の交通、道路事情や駐車スペースなどを考慮する必要があります。	施設の配置については、既存の施設の活用だけに限定することなく、既存の <u>認定こども園</u> や保育所等も含めた地域間での立地のバランスや、周辺の交通、道路事情や駐車・ <u>駐輪</u> スペースなどを考慮する必要があります。	委員会 確認済
28	P13	①幼稚園に対する対策 上から4行目	また、現在よりも通園距離や通園時間が長くなる地域が生じることが想定されるため、市内全域から通園できるよう、送迎バスの導入を検討するとともに、預かり保育の長時間化や給食の実施など保護者のニーズを的確に把握し、幼稚園の充実に向けて検討してください。	また、 <u>再編・統合した場合に</u> 、現在よりも通園距離や通園時間が長くなる地域が生じることが想定されるため、市内全域から通園できるよう、送迎バスの導入を検討するとともに、預かり保育の長時間化や給食の実施など保護者のニーズを的確に把握し、幼稚園の充実に向けて検討してください。	委員会 確認済
29	P13	(参考) 令和4年度の状況をもとに 1園に統合した場合の園児数・学級数のイメージの表中	・東幼稚園の園児数 3歳児 26 5歳児 25 合計 78 ・園児数の合計 3歳児 55 5歳児 52 合計 166	・東幼稚園の園児数 3歳児 <u>27</u> 5歳児 <u>26</u> 合計 <u>80</u> ・園児数の合計 3歳児 <u>56</u> 5歳児 <u>53</u> 合計 <u>168</u>	
30	P13	(参考) 令和4年度の状況をもとに 1園に統合した場合の園児数・学級数のイメージの表中 想定	・3歳児 55 1学級 18人 ・5歳児 52 1学級 26人 ・合計 166	・3歳児 <u>56</u> 1学級 <u>19人</u> ・5歳児 <u>53</u> 1学級 <u>27人</u> ・合計 <u>168</u>	
31	P13	②こども園に対する対策 1行目～	市立こども園は、現在は0～3歳児施設と4～5歳児施設の二つの園舎で運営されているため、例えば、0歳児から5歳児まで幅広い子どもたちが交わって生活していくことにより、自然に上の年齢の子どもへのあこがれを抱いたり、下の年齢の子どもへのいたわりの心を育むといった、こども園の良さを活かした教育・保育の実践が課題となっています。	<u>こども園は</u> 、現在は0～3歳児施設と4～5歳児施設の二つの園舎で運営されているため、例えば、0歳児から5歳児まで幅広い子どもたちが交わって生活していくことにより、自然に上の年齢の子どもへのあこがれを抱いたり、下の年齢の子どもへのいたわりの心を育むといった、 <u>認定こども園</u> の良さを活かした教育・保育の実践が <u>重要な課題</u> となっています。	委員会 確認済
32	P13	②こども園に対する対策 最終行	なお、具体的な再配置の手法や時期、立地については、こども園単独で検討するのは難しく、小学校・中学校の適正配置や市全体の公共施設の再配置の取組み、今後のまちづくりの動向なども視野に入れながら、他の施設との複合化も含めて検討を進めていくことが望ましいと考えますが、できるだけ早期に一つの施設で運営できるよう、新たに必要となる敷地や諸室の条件整理などについては、早急に検討に着手すべきです。	なお、具体的な再配置の手法や時期、立地については、こども園単独で検討するのは難しく、小学校・中学校の適正配置や市全体の公共施設の再配置の取組み、今後のまちづくりの動向なども視野に入れながら、他の施設との複合化も含めて検討を進めていくことが望ましいと考えますが、できるだけ早期に一つの施設で運営できるよう、新たに必要となる敷地や諸室の条件整理などについては、早急に <u>検討してください</u> 。	

No	ページ	該当箇所	原案	修正後	備考
33	P16	(3) ①適正規模校 下から4行目	これらのことを考慮すると、本市の小学校においては、「24学級(1学年あたり4学級)」までは、適正な教育水準を許容できる範囲にあると考えられます。	これらのことを考慮すると、本市の小学校においては、「24学級(1学年あたり4学級)」までは、適正な教育水準を <u>維持する上で</u> 許容できる範囲にあると考えられます。	委員会 確認済
34	P16	下から2行目	当然ながら、各学校によって、校舎や運動場の規模、必要な支援学級の数などには違いがあり、それぞれに置かれている状況は異なるため、～	当然ながら、各学校によって、校舎や運動場の規模、必要な支援学級 <u>などの数</u> には違いがあり、それぞれに置かれている状況は異なるため、～	委員会 確認済
35	P17	下から3行目～	当然ながら、小学校と同様、各学校によって、校舎や運動場の規模、必要な支援学級の数などには違いがあり、それぞれにおかれている状況は異なるため、～	当然ながら、小学校と同様、各学校によって、校舎や運動場の規模、必要な支援学級 <u>などの数</u> には違いがあり、それぞれに <u>置かれている</u> 状況は異なるため、～	委員会 確認済
36	P18	最終行	そのため、数年先の児童生徒数については、学齢簿データなどからできるだけ正確な推計に努めるとともに、地域における宅地開発の状況等も把握しながら、早い段階から情報公開等を行いながら、早めに検討に着手されることを望みます。	そのため、数年先の児童生徒数については、学齢簿データなどからできるだけ正確な推計に努めるとともに、地域における宅地開発の状況等も把握しながら、早い段階から情報公開等を <u>行い</u> 、早めに検討に着手されることを望みます。	
37	P19	(6) ①(ア) 下から4行目～	同一中学校区内の小学校同士の見直し又は小学校区と中学校区の一体的な見直し	「同一中学校区内の小学校同士の見直し」又は「小学校区と中学校区の一体的な見直し」	委員会 確認済
38	P20	(ウ) 3行目	大規模校に対して、直接的に適正規模に向かうための手法ではありませんが、児童生徒の増加で不足が見込まれる教室等の確保による緩和、改善という観点から、既設の学校の増改築等についても検討すべきです。	大規模校に対して、直接的に適正規模に向かうための手法ではありませんが、児童生徒の増加で不足が見込まれる教室等の確保による緩和、改善という観点から、既設の学校の増改築等についても検討 <u>してください</u> 。	
39	P20	(オ) 下から3行目～	また、関連する取組みとして、適正規模に向かうための手法ではありませんが、義務教育9年間を見通し、小学校から中学校への連続的な学びを推進するため、小学校5・6年生を対象として、教科別に専門の教員が教える「教科担任制」の導入についても検討してください。	また、関連する取組みとして、適正規模に向かうための手法ではありませんが、義務教育9年間を見通し、小学校から中学校への連続的な学びを推進するため、小学校5・6年生を対象として、教科別に専門の教員が教える「教科担任制」 <u>や学校又は地域の特色を生かし、学習指導要領等によらない特別の教育課程を編成し実施することができる「教育課程特例校」</u> の導入についても検討してください。	委員会 確認済
40	P22	(7) 7行目	今後は、本答申を踏まえ、それぞれの学校の状況等に応じて、優先順位付けを行い、速やかかつ着実な取組みの推進に努められることを望みます。	今後は、本答申を踏まえ、それぞれの学校の状況等に応じて、優先順位付けを行い、速やかかつ着実な取組みの推進に努められることを <u>強く</u> 望みます。	委員会 確認済
41	P22	(7) ①狭山中学校区 下から7行目～	狭山中学校については、今後も生徒数の増加が見込まれています。以前から運動場の狭さが指摘されており、また、校舎の建築時期も市内で最も古く、施設の老朽化も課題となっています。 そのため、建替えを検討する場合には、通学する子どもたちが小学校と中学校で連続して建替えを経験することがないよう、その実施時期については慎重に検討するとともに、児童生徒の移動の安全性を確保したうえで、プールや体育館など、体育スペースの共同利用などについても検討されることを望みます。	狭山中学校については、今後も生徒数の増加が見込まれて <u>おり、速やかな対応が求められています。また、</u> 以前から運動場の狭さが指摘されており、校舎の建築時期も市内で最も古く、施設の老朽化も課題と <u>なっており、建替えや増築を含む根本的な改善が求められます。</u> そのため、建替え <u>や増築</u> を検討する場合には、通学する子どもたちが小学校と中学校で連続して建替え等を経験する <u>ことなく、また、その対応が遅れることのないよう</u> 、その実施時期については慎重に検討するとともに、児童生徒の移動の安全性を確保したうえで、プールや体育館など、体育スペースの共同利用などについても検討されることを望みます。	委員会 確認済
42	P23	(7) ②南中学校 9行目	南第一小学校と南第三小学校は小規模校同士で隣接しているため、通学区域の見直しや 通学区域の弾力化による適正規模の実現は難しいと考えられますが、両校を統合した場合には、中長期的に各学年2学級以上が実現できると見込まれることから、早急に統合について検討すべきです。	南第一小学校と南第三小学校は小規模校同士で隣接しているため、通学区域の見直しや 通学区域の弾力化による適正規模の実現は難しいと考えられますが、両校を統合した場合には、中長期的に各学年2学級以上が実現できると見込まれることから、早急に統合について検討 <u>してください</u> 。	

No	ページ	該当箇所	原案	修正後	備考
43	P23	(7) ③第三中学校区の学校名	半田幼稚園	(削除)	委員会 確認済
44	P28	資料3 委員名簿の区分及び所属等	大阪狭山市地区長会	大阪狭山市 <u>自治会地区会連合会</u>	委員会 確認済
45	目次	第2章	本市の学校園をとりまく現状と今後の見通し	本市の学校園を <u>取り巻く</u> 現状と今後の見通し <u>について</u> ↑No1 と同一箇所	追加
46	目次	第2章(1)	学校園の標準的な規模等についての国の考え方	学校園の標準的な規模等についての国の考え方 <u>について</u>	追加
47	目次	第2章(2)	園児・児童・生徒数及び学級数の推移と今後の見通し	園児・児童・生徒数及び学級数の推移と今後の見通し <u>について</u>	追加
48	目次	第2章(3)	学校園の配置状況	学校園の配置状況 <u>について</u>	追加
49	目次	第3章(3) 必要な対策についてのページ数	13	<u>12</u>	追加
50	目次	第5章(1)	より良い教育環境の実現	より良い教育・ <u>保育</u> 環境の実現	追加
51	目次	第5章(2)	取り組み	<u>取組み</u>	追加
52	目次	第5章(3)	情報発信・共有	<u>情報発信</u>	追加
53	P2	第2章見出し	本市の学校園をとりまく現状と今後の見通し	本市の学校園を <u>取り巻く</u> 現状と今後の見通し <u>について</u> ↑No4 と同一箇所	追加
54	P3	(2) 見出し	園児・児童・生徒数及び学級数の推移と今後の見通し	園児・児童・生徒数及び学級数の推移と今後の見通し <u>について</u>	追加
55	P5	(3) 見出し	学校園の配置状況	学校園の配置状況 <u>について</u>	追加
56	P12	(1) 見出し	基本的な考え方	基本的な考え方 <u>について</u>	追加
57	P12	(2) 幼稚園の適正規模について 「本委員会が考える幼稚園の適正規模」の表中	1学年あたりのクラス数 2～3クラス	1学年あたりの <u>学級</u> 数 2～3 <u>学級</u>	追加
58	P12	(3) 必要な対策について 4行目～	統合に伴い新たに実現する幼稚園においては、適正規模の考え方に基づき、1クラスあたりの人数について、3歳児は10～19人、4歳児は15～24人、5歳児は15～29人とし、各学年2～3クラスを編制できるように検討してください。	統合に伴い新たに実現する幼稚園においては、適正規模の考え方に基づき、1 <u>学級</u> あたりの人数について、3歳児は10～19人、4歳児は15～24人、5歳児は15～29人とし、各学年2～3 <u>学級</u> を編制できるように検討してください。	追加
59	P18	(4) 見出し	通学距離・時間について	通学距離・ <u>通学</u> 時間について	追加
60	P22	(7) 見出し	地域(中学校区別)の現状と今後の対応について	地域(中学校区)別の <u>課題</u> と今後の <u>方向性</u> について	追加
61	P24	(1) 見出し	より良い教育・保育環境を作る視点を第一に	より良い教育・保育環境の <u>実現</u>	追加
62	P29	第9回	(開催日) 令和4年〇月〇日(〇) (議事内容)・答申について	(開催日) 令和4年 <u>12月1日(木)</u> (議事内容)・答申 <u>(案)</u> について <u>・今後のスケジュールについて</u>	追加